

# この子らを世の光に

## 虹の架け橋

教頭 神谷 陽一



今年度、校長より学校の基本構想「グランドデザイン」が示されました。そして、「共生社会の実現」というテーマに向け、地域と連携した教育活動がスタートしました。

いずよう魅力化協議会（学校運営協議会）では、鳥根県立大学の西村健一先生を始め、13名の委員の皆様にご意見をいただき、承認をしていただきました。また、学校と地域の連携や地域への情報発信のあり方について、それぞれの立場から様々なご意見をいただき、学校運営に活かしていくことができました。今後も委員の皆様から多様なご意見をいただきながら、学校と地域の連携のあり方について充実を図っていききたいと思います。学校の学習においては、育てたい児童生徒像である「地域で生きる人になる」ことを目指して地域の様々な方々と連携した学習が展開されました。そして、地域のコミュニティセンターや観光振興団体、外国人サポーターやNPO法人、保育園や学校、一般事業所や福祉事業所、ライオンズクラブなど、数え切れないくらい地域の方々と連携し、学習の充実を図ることができました。

高等部では、「総合的な探究の時間」で

タピオカの原料である「キャッサバ」が出雲で栽培されていることを知った生徒が、日系ブラジル人の方が経営している農場を訪れました。

そこで、生徒たちは、「ブラジルで食べられている野菜を出雲市に広めたい。」という日系ブラジル人の方の熱い思いに触れ、県内でも1番外国の方が多い出雲市において「多文化共生」の視点をもつことが重要であることに気付いていきました。そして自分たちに協力できることは何かないかと思考を巡らせていきました。

その結果、各作業班の協力を得ながら、農場の環境整備や生産物を利用した製品作り、学校での野菜栽培の試行といった活動が展開されました。また、来校される地域の方のために外国人サポーターの方や外国籍の保護者の方に協力を得て、ポルトガル語の校内表示も作成しました。



キャッサバとピーズのババロア

地域の方の思いを知り、自分たちでできることは何かを考えながら地域貢献につながる活動を模索していく。この過程こそが、学びの充実や学校と地域のWIN-WINの関係につながっていくのではないかと思います。

今後とも「共生社会の実現」というテーマに向かって、共生社会の架け橋となり、ここにしかないすてきな虹を地域との間に架けていきたいと思います。

令和5年3月9日

発行

立校 根養 雲出 島根県 養護学校



出雲養護学校HP

### 地域とともに

小学部主事 大野 浩司

今年度も感染症対策を行いながら、子どもたちの興味関心を引き出せるような授業づくりを行った1年でした。子どもたちの頑張っている姿や学校生活の様子についてはHPでも発信していきますので、ぜひご覧ください。

地域との連携では、神西小学校や居住地の学校、大田分教室との交流も計画

的に行うことができました。同世代の友だちと関わる中でたくさん学びがあり、今後も交流を大切にしていきたいと思えます。さらに、高学年で実施しているクラブ活動や低学年の遊びの指導で地域の方に来ていただき、太鼓や獅子舞、昔の遊びなどを一緒にすることもありました。好きなことや得意な活動を身近な友だちや教員と一緒に取り組むことで、将来の「地域で生きる人になる」ための学びを今後も積み重ねてほしいと思います。

### 魅力ある授業づくり

地域とともにを振り返って

中部主事 曾田 慎一朗

今年度中学部では、生徒・教員の個性を活かしたり、「地域の力」を取り入れたりして、魅力ある授業づくりを推進してきました。

校外学習では、地域の図書館に行き読み聞かせを聞いたり、地域の自然や文化について学んだりしました。また、専門家の方に来校してもらい、朱鷺や古代出雲、植物、野菜などについて体験的に学

んだり、教えてもらったりしました。ダンスや太鼓についても頑張りました。神戸川太鼓の山根さんと作り上げた中学部太鼓曲「虎舞（こぶ）」R4バージョンが完成し披露しました。

どの授業でも、講師の方（地域の方々）のやさしく熱心な人柄に触れ、みんな楽しそうに、時には真剣なまなざしで、話を聞いたり体験したりして、いつも以上に張り切っていた姿が印象的でした。

地域の方々を始め皆様に支えられ成長できた1年間だったと思います。ありがとうございました。

### 毎週木曜日は営業日

高等部主事 竹崎 志保

高等部は、コース制をとって学んでいます。今年の職業コースは、作業班の垣根を越えた学び合い、助け合いを大切に学習を積み上げました。コース全員で衛生研修、清掃研修、接遇研修を実施し、どの作業班でも対応できる力をつけるようにしました。そのことにより、営業日に人手の足りない店舗へ応援に行ったり受付を行ったり、臨機応変に営業日に臨

むことができました。自信をもって実習に向かう姿にもつながったと思います。

総合コース・基礎コースは、可能な限り営業日に作業班製品の販売や作業の様子を見ていただく機会を提供しました。営業日が、職業コースがサービスを提供するだけでなく、高等部全体が「地域の方をおもてなす日」になっていったと感じます。

「毎週木曜日は営業日」。来年度も生徒たちが成長していく姿をたくさんの方に見ていただきたいと思います。

積み重ねの大切さ

肢体不自由教育部門 福島 末歩

今年度も感染症対策を行った上で、校外学習や修学旅行、現場実習など校外に出かけ、普段とは違う場所で、地域の方と触れ合い貴重な体験をすることができました。校内でも、小学部ではオンラインで学年や学部の友だちと一緒に学習し、笑顔や張り切る姿が見られました。中学部は誕生会、高等部では自分たちが主催

したゲーム大会などで学部の教員や友だちと活動し、自分の役割を果たす姿が見られました。日頃の子どもの頑張りや積み重ねがしっかりと活かされ、いつもと違う場面でも、普段通りの力を発揮して、人との関わりや活動を楽しむ様子がいろいろな場面で見られた1年でした。



今年度の寄宿舎生活

寄宿舎副主任 田部 育子



生徒たちの「やってみよう」という希望が叶えられるように、様々な工夫をしながら生徒と職員が協力して今年度も過ごしました。お楽しみ会では事前に好きなパンをいくつか選

んで、寄宿舎の食堂でパンバイキングを行いました。食事の学習会では栄養について学んだあと、地産地消の高価なお弁当を食べて心も体も満たされました。余暇日では食堂に大きなスクリーンやテレビを用意してまるでeスポーツのようなゲーム大会をしたり、学校近くの海まで思いの丈を叫びにみんなで歩いて出かけたりしました。家庭とは違い様々な制限がありますが、集団生活の魅力を活かして楽しい時間を過ごすことができました。

人、もの、こと、とつながろう

大田分教室 中学部 三谷 愛子

私たちはSDGsをテーマに、地域とのつながりを意識して活動しました。一つは、学校周辺の道路や海岸の清掃です。地域で清掃ボランティアを続けておられる方々と一緒にごみ拾いを行いました。ごみが多い場所を教わったり、地域にまつわる貴重な話を聞かせてもらったりするなど、よい交流となりました。もう一つは、地域の人材を活かした作業学習です。農業と手芸について専門的な知識技能を学ぶとともに、地域の方に

優しく指導してもらうことができました。また、新聞紙などを再利用した製品作りでは、生徒が自らアイデアを出し、実現していく姿が見られました。これらの製品は、作業学習や校外学習などでお世話になった方々へのお礼として活用しました。日々の生活の中にあるたくさんの学びの芽を見つけて、育てていくこと、そしてその積み重ねが生徒自身の自信につながる人となりがあっていくことを実感した1年でした。



地域に支えられて

遼摩分教室主任 鎌田さとみ

今年度も地域と連携した学習活動に取り組みました。遼摩図書館での作品展やペーパーサート発表、押し花教室、ゆず収穫などは今年度地域の方々に関わっていただいた初めての学習活動です。また遼摩高校とは、文化祭・体育祭・遼摩高フェア・1年生との交流活動で同世代との関わりをもつことができました。遼摩高校の先生方には、実習報告会の参観、パン作り教室、面接指導、作業製品の販

売学習など日々の学習でも大変お世話になりました。これらの学習を積み重ねて、集団での活動に自信のなかった生徒が今では遼摩高生との交流活動で司会進行をするようになったり、多くの生徒が積極的に生徒会長に立候補したりするなど、生徒たちの成長を感じた1年でした。これからも「地域で生きていくために」地域に支えられてつながっていききたいと思えます。



皆さんに支えられて

雲南分教室主任 福田由利恵

この1年間、たくさんの方と関わりながら学習に取り組んできました。1学期は、JR木次鉄道部の方から電車の乗り方や仕方やマナーについて教えていただいたり、地域の方から分教室のある地王地区についてお話しいただいたりしました。2学期は、山陰絵手紙の会の方に、絵手紙の書き方を教えていただいたり、

地王地区の方とポッチャ交流会をしました。3学期は、本校の元校長先生に書き初めの指導をしていただきました。この他にも販売会に来てくださった方など、多くの方が生徒のことを思い、生徒たちの学びを支えてくださったことに心から感謝しています。



島根や出雲の

いいところ発見したよ

みらい分教室主任 竹本めぐみ

みらい分教室では行事や学習に地域とのつながりを意識しながら継続して取り組んだことで学びがパワーアップしました。特に小学部は生活科や社会科見学で、

神西湖のシジミ漁、大社でのブドウ狩り、尾原ダム見学などを通して、地域の産業を知り、守り、発展していくためにどんな工夫があるのか熱心に話を聞きまし

た。1月には神西地区の方から昔遊びを教わり、一緒に遊ぶ体験をしました。高学年のクラブ活動では、石見神楽に挑戦し、本物の蛇胴を使って演技しました。子どもたちは各活動を体験することで県内や市内の魅力や全身で味わい、よさを発見してきました。これからも地域資源や達人に直接触れ合うことを通して、様々な学びを深めていきたいと考えます。

